

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 一般国道249号 <small>わじま</small> 輪島バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 石川県
起終点 輪島市 <small>いなぶねまち</small> 稲舟町～ <small>とうやまち</small> 稲屋町	延長 5.0km	
事業概要 一般国道249号輪島バイパスは、観光都市輪島市の中心市街地を迂回し、市街地に流入している通過交通を分離することにより、市街地の慢性的な渋滞を解消し、現道の円滑な道路交通機能の確保を目的とする環状道路である。		
H6年度事業化	S50年度都市計画決定 (H5年度変更)	H8年度用地着手
		H13年度工事着手
全体事業費	129億円	事業進捗率
		48%
計画交通量	8,900台/日	
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.5 (残事業) 5.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 61/144億円 事業費：56/138億円 維持管理費：5.4/5.4億円
		総便益 (残事業)/(事業全体) 361/361億円 走行時間短縮便益：355/355億円 走行費用減少便益：0.39/0.39億円 交通事故減少便益：6.2/6.2億円
基準年 平成20年		
感度分析の結果		
事業の効果等 市街地に流入している通過交通を分離することにより、市街地の慢性的な渋滞を解消し、円滑な道路交通機能が確保される。		
関係する地方公共団体等の意見 輪島市から整備促進要望有り。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成13年4月にのと鉄道輪島穴水間の廃止に伴い、鉄道交通から道路交通へ転換。 ・平成15年7月に能登空港開港により、交流人口が増加。 ・平成19年3月25日に発生した能登半島地震により、道路ネットワークの構築によるリダンダンシーの重要性が再確認されたとともに、災害復興支援による地域の活性化が強く望まれている。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 I期区間の輪島市稲屋町から杉平町L=2.4kmのうち、杉平町地内のL=0.3kmを平成18年度に供用。用地買収が本年度完了予定であり、輪島市施行の(市)久手川塚田線との同時供用を目標に事業推進中。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等		
施設の構造や工法の変更等 一部区間を残し、両側歩道から片側歩道とし、コスト縮減を図った。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由	I期区間の用地買収が本年度に完了予定であり、輪島市内への流入交通と通過交通の分離による市街地交通環境の改善といった環状道路としての本路線の整備の必要性は高く、事業継続と判断した。	
事業概要図		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。